

なり、是よりして宇野播磨權守則景と申、其第二人あり、第二は宇野新大夫則連、其弟得平三郎これなり、是は佐用庄の内得平名といふをとりたるにより、則得平と名乗るに、今出井分と申は此所なり。

〔勢州四家記〕工藤の一家とは、工藤左衛門尉藤原祐經の後胤也、先祖工藤治郎左衛門尉親光、足利尊氏卿へ仕へ、子孫繁昌して、勢州安濃郡長野に居住し、名字を長野と號せり。

〔豆相記〕上杉氏、姓藤原、左大臣冬嗣苗裔也、兄與弟號東管領、執柄異他、威名赫如矣、兄者住山内、故號山内、弟者居扇谷、故號扇谷。

〔北條五代記〕關東天文亂の事

聞いていはく、上杉殿の系圖は、いつの時代よりはじまり、源平藤橘、いづれの氏にてわたり候ぞ、老士こたへて、上杉殿は藤原氏なり、御先祖を尋るに宗尊親王、一年鎌倉へ御下向の時、御介錯として、勸修寺の重房公、御供有て下向の時、丹州上杉の庄を賜はり、武家に下り、修理大夫を、左衛門督に任せらる。

〔北條五代記〕百姓氣なげをはたらく事

聞しは昔元龜二年の秋、北條氏政と佐竹義重ひたちの國にをいて對陣のみぎり、百姓御まへに參候す、一人申けるは、それがし岩井の百姓にて候が、味方毎夜草に臥候を兼て存する故其心がけ有て、竹鎧一挺支度いたし、今夜の夜討に味方の中へくはり、さんをみだした、かふ時に、敵とそれがしたがひに鎧くみ、それがし左のかいなを一鎧つかれ候へ共、敵をつきふせ首取て候と申、氏政聞召、百姓として氣なげのはたらき奇特の旨、直に御ほうび有て、○申此度の勳賞に、百姓を點じ侍とし、在名を用ひ岩井を名のり、官は兵庫助になし下さる、今日より岩井兵庫助と名付べし、其上岩井の郷を領知し、永代子々孫々他のさまたげ有べからず、御はたもとに罷有